教育目標　やさしい子　勉強する子　たくましい子　～自ら学び ともに考え 明日をつくる 福田っ子～

福 田 小 学 校 だ よ り　No.12
令和6年　7月16日(火)
文責:校長　青田　祥一

〒979-2708
福島県相馬郡新地町大字福田字中里16
TEL ： 0244-62-2303
FAX ： 0244-63-2016
学校web：https://shinchi.fcs.ed.jp/福田小学校

第28回　新地町少年の主張大会

最優秀賞　5年　○○　○○　さん
優秀賞　　6年　○○　○○　さん

７月８日(月)、新地町文化交流センター(観海ホール)にて、第２８回　新地町少年の主張大会が開催され、小学校の部において本校５年生の○○　○○さんが最優秀賞に、６年生の○○　○○さんが優秀賞に選ばれました。おめでとうございます！！○○さんは「いじめ」を○○さんは「新地町の未来」をテーマにスピーチを行いました。裏面に２名のスピーチ全文を掲載してありますので、どうぞご覧ください。

昨年度の最優秀賞　○○　○○さんと優秀賞　○○　○○さんに続き、各校を代表する子ども達の中で、２年連続で２つの賞をいただけたことは、本校として快挙だと思います。全校生並びに保護者の皆様とともに２名のがんばりを讃えたいと思います。

２人は、担任とともに作文を書き上げ、何度も推敲を重ね、人々に訴えかけるスピーチを繰り返し練習してきました。そして、全校生の前での発表を経て本番に臨みました。本番での発表は、大変堂々としており、とても立派でした。

最優秀賞　○○　○○さん(右)
優秀賞　　○○　○○さん(左)

参加者の皆さん

放射線学習→自然体験→フィールドワーク　【宿泊活動　5･6年生】

７月１０日(水)から１２日(金)まで２泊３日で５・６年生が宿泊学習に行ってきました。様々なことに友達と協力し合いながら楽しく活動してきました。

詳細については、随時ブログにて紹介したところですが、動画も期間限定（７月１９日まで）で公開していますので、まだ、ご覧になっていない方は、ぜひご覧ください。　宿泊活動ブログ↑

「自分の言動に責任を持つ」　福田小　5年　○○　○○

「いじりといじめは一文字違い。」みなさんは、この言葉を聞いて何を感じますか。

現在、社会問題化しているいじめ。２０２２年、ある中学校で起きたいじめにより、女子生徒が自ら命を断ちました。当時、小学三年生だった私にとって、衝撃的なニュースだったことを今でも覚えています。なぜ、女子生徒はいじめにより、命を落とさなければならなかったのか。どうしていじめが起きてしまったのか。当時のニュースをさかのぼって調べてみると、複数人の生徒が女子生徒に対して仲間はずれをし、無視をするといういじめを数年間続けていたということを知りました。女子生徒が自ら命を断つに至るまでの苦しみ、悲しさ、憎しみ…女子生徒の気持ちを容易に想像するには私の経験が足りなすぎるという現状がありました。言葉でうまく言い表すことのできない負の感情が込み上げてきたのです。

最近、道徳科でいじめについて考える授業があり、当時のニュースと結びつけて考える機会がありました。いじめには、「被害者」「加害者」「観衆」「傍観者」という四層構造があります。その枠組みに登場人物を当てはめ、気持ちを想像していたのですが、学級のある友人が「どうしていじめは四層構造なのですか。五層構造ではないのですか。」と言ったのです。私は、すぐに彼の言葉を理解できませんでしたが、続けて彼はこう言いました。「いじめを止める人はいないのですか」と。彼の言葉を聞いた時、まさにその通りだと感じた一方で、もし、いじめに遭遇したら止めたいけれど、少し怖いとも感じました。その勇気があるのか、次は私がいじめのターゲットにされてしまうのではないか、という恐怖があったからです。「傍観者にならない」言葉では簡単に言えますが、正義ある行動をすることの難しさを感じた瞬間でした。

また、担任の先生から言われた「いじりといじめは一文字違いだ」という言葉も印象に残っています。その言葉を聞いた時、私は、はっとしたからです。もしかしたら、自分ではからかいのつもりが、相手からしたら「いじめられた」と感じてしまうことがあったかもしれないと考えました。いじめ防止対策推進法でも、いじめられた児童生徒が「心身の苦痛を感じているもの」がいじめであると定義されています。相手が苦しい、辛いと感じたらそれはもういじめなのです。だからこそ、自分の言葉に、自分の行動に、責任を持たなければならないと考えます。自分の言葉一つで、人の命を奪うことになってしまうということを忘れてはいけないと思うのです。

人は誰しも「人権」をもっています。人権とは、人間が人間らしく幸せに生きるためのものです。人はそれぞれ好きなものや性格が違うということは当たり前ですが、時として私たちは自分とは異なる他人にとまどったり、避けてしまったりします。それは、そのような人と出会ったときに、自分は「ふつう」であり、その枠組みに入っていない人を「ふつうではない」と無意識に線引きしてしまっているからだと考えます。しかし、私たちの考え方や生き方に優劣はありません。必要のない個性は無いのです。人はみな、同じではないからこそ、自分とは異なる他者と関わり合うことで、面白いものを生み出したり、新たな考えに出合ったりすることができます。私自身も友人と考えが合わず、言い合いをしたり、ぶつかり合ったりしたことがありましたが、それらを経て、友人のよさに気付くことができるようになりました。言葉は刃物のように人の心を傷つけます。一度口にしたら元には戻せません。その反面、言葉により救える命もあると考えます。だからこそ、私は自分と相手の違いを受け入れ、自分の発する言葉や行動に責任をもちながら強く生きていきたいと思うのです。

「ICTで輝く新地町」　福田小　6年　○○　○○

明るい未来の話をしましょう。今、世界では、インターネットを使う生活やＩＣＴを活用した活動が増えています。授業の中で大きなスクリーンを使って発表したり、インターネットで買い物をしたりするなど、皆さんの生活や学習でＩＣＴ機器を活用する機会が実に多いとは思いませんか？私も、スマートフォンやタブレットを使い、音楽を聴いたり、学習に使ったりしています。これから先、１０年後、２０年後は、今よりもっと利便性が向上し、活用する幅も広がっていくでしょう。

ただ、考えなくてはならないこともあります。それは、デジタル化が進むことで、今よりもっと機器に慣れて、使いこなせなければ生活が不便になってしまうことです。現在でも、すでに限られた世代の人たちしか、デジタル機器を使いこなせていないのが現状です。だからこそ、これから先の未来を見据えたとき、さまざまな世代の人たちにも、自由に、目的に合わせて使えることが必要になると考えます。

私は、この現状を解決するには、私たち自身が動く必要があると考えています。新地町は全国に先駆け、一人一台端末やＩＣＴを活用した学習をしています。私も一年生からタブレットを使って学習をしてきました。また、ただ使うだけではなく、よりよい使い方や情報モラルについても学んできました。そのおかげで、ＩＣＴ機器を使いこなすことができるようになりました。そんな私たちだからこそ、できることがあるのではないでしょうか。その一つとして、去年から始まった新地町のＩＣＴジュニアリーダーがあげられます。ジュニアリーダーとなって、実際にデジタル機器の使い方に困っている地域の方々に教えたり、一緒にデジタルについて考えたりすることができる機会が生まれました。私自身もＩＣＴジュニアリーダーとして活躍できるように、情報モラルやタブレットの操作などをさらに学んでいるところです。私たち自身の強みを生かし、地域の方々と交流し、少しずつ課題解決に向かうことができればよいと考えています。

そして、新地町のよさであるＩＣＴを使って他にもできることはないか考えました。それは、伝統文化の継承・発信です。それぞれの地域に伝統文化があります。去年、福田小学校からは、○○　○○さんが伝統文化について問いかけました。伝統を繋いでいくこと、伝統文化を発信していくことが大切だと主張していました。私自身も福田十二神楽に参加しているので、どうすればよいか悩みました。もちろん、動画に残して発信する方法もあると思いますが、それだけでは、神楽の魅力は十分に引き出せないと思いました。日本の伝統文化や新地町の福田十二神楽の魅力を多くの方に発信し、知ってもらうために、バーチャルリアリティー（ＶＲ）を活用するのはどうかと考えました。笛の音色、舞の表現など、実際にその場にいるような体験をすることができます。３６０度、どこからでも、どの距離からでも見ることができるＶＲは、神楽の魅力を十分に引き出せるはずです。また、そのＶＲを生かし、日本や世界に発信することで、継承という面でも興味を持った方たちがこの新地町に足を運んでくれるのではないでしょうか。私の中で、ＩＣＴの可能性が広がっていく感覚が生まれました。

もっと明るく輝く新地町にしていくために、ＩＣＴを使いこなすことができる私たちが、積極的に行動し、正しく判断し、地域に貢献していかなければならないのです。これからの未来、新地町のよさ、強みを生かし、幅広い世代の誰もがデジタル機器を自由に使いこなしていくことが、新地町の明るい未来につながっていくと考えます。私もこれからの町づくりをする一人の担い手として、新地町の可能性を広げることに力を尽くしていきます。